

6/26 知事と JR 東海金子社長との面談議事録

1 日 時 令和2年6月26日(金) 13:30~14:45

2 場 所 静岡県庁東館5階知事室

3 出席者 静岡県 川勝知事
JR 東海 金子代表取締役社長

4 発言内容

(金子社長)

本当に今、御配慮も、こういう設営のご配慮もしていただきまして、今日お会いいただきましてありがとうございます。

(知事)

ようこそお越しいただきましてありがとうございました。

(金子社長)

日頃から本当に、私ども観光の繋がりとかいろいろお世話になっておりますが、今日は中央新幹線の話をまず、させていただきたいということで参りました。その前にですね、やっぱり過日の有識者会議の第1回目で、私の発言で大変失礼をいたしまして、改めて書状差し上げましたが、ちょっとお詫び申し上げます。

(知事)

私はですね、JR 東海のトップとして、何をしゃべるかといえば、東海、JR 東海さんの社運をかけた、お話をされるというのは当たり前なことですね。ですから、その話それ自体はですね、全国の人に聞いていただくのにふさわしい内容だと思ってるんですよ。ただあの会議がその趣旨ではなかったということだけでありましてですね。それで県民の方から、厳しい意見がございまして、ご無礼かと思いましたが、明確にお手間下げました。しかしご丁寧なご返事賜りまして、お返事読んでですね、社長さん大変だなと思いつつですね、また市町の関係者の方に対しても、誠意あるお手紙、連絡をくださったそうで、本当にありがとうございました。

(金子社長)

実は、今日のこういう面会をさせていただく前に、知事、流域の市町の首長さんたちと、こういう会議を持たれて、その内容も、伺っております。一口で言えば大変厳しい意見が多かったというふうに伺っておりまして、JR 東海は本当に水を大事に思っているのかと。自分たちの水に対する心配、思い、そういうことをちゃんとわかってくれてるんだろうか。あるいは有識者会議が今始まったところで、ヤードの建設整備を始めさせてくれというのはやっぱりよくな

いんじゃないかと。たくさん厳しい意見があったということは承知をして参りました。その上でお会いいただいてありがとうございます。私たちですね、水に関する心配について、何とか私たちがわかっていないんじゃないかとか、私たち説明をしたつもりでも、十分にそれが伝わっていないというそういう現実に対してはですね、これはしっかり受けとめて、これからしっかり対応して参りたいと思いますので、よろしく願いいたします。それと、具体的にはそういうことで、今、有識者会議が始まっておりますけれども、有識者会議の中でもですね、座長の福岡座長をはじめ、委員の皆さんが、これは科学的、それから工学的な議論をするだけけれども、同時にそれを通じて、これ地域の皆さんのこういう理解、を深めて心配を解消するということも同時にやっていくんだと。というようなことを強調されることがたびたびありまして、私たちもそれを、その通りだということを受けとめてですね、この有識者会議にあたって私たちしっかり説明をする、そういう立場にありますので、これはこれでまたしっかりそういうことをわきまえてですね、やっていきたいというふうに、努めていきたいというふうに思っております。それでまたこういう点についてですね、知事からまたいろいろ後から今流域の市町の皆さんのお話またお聞かせいただくことになろうかと思っておりますけれども、まず市町の皆さんを代表されてる知事にですね、私どもの水に対する取組、あるいは環境に対する取組、しっかりやっていくという決意をちょっとお伝えした上でですね、今日はまた書面でお願いをした件なんですけれども、最初にヤードを作るということについてですね、またお話をさせていただきたいというふうに思います。2027年の開業に向けてですね、ヤードの整備ということをお願いをするということなんです、これについても、やっぱり水の問題をおろそかにするつもりはないということとか、あるいはなし崩しで、トンネルの掘削を始めるつもりは、これはないと、お約束したいということであるとか、あるいは有識者会議をですね、軽んじるつもりは全くないというようなことをですね、そういうことを前提にしてですね、聞いていただきたいと思っております。今日は図面の資料があるんですが、ちょっと説明が至らないことがあるかと思ひまして、ごくごく簡単に今日1枚こういうことを申し上げたいと思うんですが、1枚目はですね本当に今申し上げたこととさせていただきます。しっかりやっていくということとさせていただきますが、まず最初にですね、知事もう十分ご理解をされてると思うんですが、リニアのこういうなぜリニアを作るのかということについてですね、これ私、建設の責任者なので、そのエッセンスを私の口からちょっと短いですが、お話をさせていただきたいというふうに思います。このリニアはですね、一番の目的は、この日本経済の中でも非常に大きな役割を果たしている東海道新幹線のバイパス。これを作るということが一番の大きな役割です。東海道新幹線は今このコロナの影響がありますけれども、一昨年までのベースですと、一日に48万人の方がご利用いただいている。それから昨年のベースでも1日に378本の列車が動いている。それぞれ1,323という座席ですから、これはジャンボ機三個分で、50万座席を運んで動いている。世界で言いますと、これは、ニューヨーク・シカゴとか、

あるいはロンドン・パリとか、それもうみんな1桁、違ってそのずっと下の方の数字になります。そういうことですね、私たちは、この新幹線について私たちが話をする時には、こんなに便利になりましたっていう話をいつもするんですが、それはさておき、私たちが日常いつもやってることはですね、地震が起こったらどうしよう、それから或いは降雨が、降雨災害に対してどうして強くしたらいいだろうか、50年以上経ったこの老朽化をどうして、対策をしようか、といういわば災害対策ということに大変力を入れてるんですが、もう抜本的な対策はもう一本作ると。バイパスを作るとのことなので、それが一番の目的でございます。この災害に対するリスクという観点からすると、じゃあ、いつ作ればいいのかと言われると、なるべく早い方がいいと。起きてからですね、できてればよかったということではなくて、やっぱり早く作っておいてよかったなということにしたいと思っておりますので。このリニアの問題はですね、これもしばしば、人がリニアの話をする時には、大変夢のある乗り物ですねとか、あるいは私たちの会社にとって非常に事業性の高い、そういうことに目を向けられることが結構多いんですが、当事者から見ればですね、一番の対策は、これはやっぱりリスク対策、リスク対策が第一だということです。それともう一つやっぱり目的がありまして、やっぱりリニア方式を使うということで、500キロ出ますので、大変日本の経済にとって大きなインパクトになると思います。東京から名古屋、大阪、これが1時間ちょっとで結ばれるということになるので、これはやっぱり大変なインパクトで、人口がずーっと減っていく日本の中ではですね、地方がだんだん元気になるということも大切な課題なんです、日本の中核の経済がですね、やっぱり非常に一体化して国際競争力を維持しつつ、あるいはもっと強めるということも大事なことで、そういう面からも大変期待をされていると。そしてもう一つはやっぱり沿線の各県ですね。リニアの効果を、拠点の駅を中心に広めていこうという強い意欲を持っておいでになって、私たちは各県で用地買収、用地の取得ですね、大変お世話になってるんですが、それと同時に各県は各県で自分の県を発展をさせていこうということで、独自にインフラの整備をされるのかということ、ちょっと足並みをそろえてやってきております。そういう大きな意義を受けて、国交省からは、私たち工事認可を受けまして、2027年を目標に、こう進めていこうということで責任感とか、あるいは期待感を背負ってやってるということで、何か私たちがですね、企業の一つの1企業の利害で急いでいるということではなくて、そういう責任・期待を背負って、また各県と足並みをそろえながらやろうとしているということについてですね、ちょっと釈迦に説法みたいなことかもしれませんが、ぜひ改めて私もそういう気持ちでおりますので、ぜひご理解いただきたいというふうに思います。それと、今日お持ちしましたのはですね、ヤードの話なんです、その前に、なぜ、なぜ、南アルプスですね、この最初のこちらをご覧くださいんですが、南アルプス工区が注目をされてるのか、なぜ急ぐと私たちが申し上げてるのかということについてですね、少しだけお話したいと思います。もともとやっぱりですね、長さの長いトンネル、長さの長いトンネルはですね、

しかも内容が難しいトンネルは、こういう大きな、こういう工程の中でですね、大変制約要件になるというか、大きな要素を持つんですね。地上で建てる建物というか構造物の場合には、いろんなところから着工して、何ていうか極端なことを言えば突貫工事をして、早くぐっと圧縮して仕上げることができるんですが、トンネルの場合は、片方から掘り始めて目的地まで、掘り進めるというのは、これは一つしか道がないので、それにどうしても時間がかかるっていう形になります。具体的に見ていただきますと、私どもこの静岡県内で西俣という斜坑それから千石という斜坑から、このトンネルを掘らせていただきたいと思ってるんですが、西俣から掘り始めて、この赤い線で、斜坑を掘っていきますと、緑と青の先進坑を両方両側に、長野県側と、山梨県側に延びるんですが、一番長いのはやっぱり長野県側。3.5キロと3キロあります。それから千石斜坑からいっても、左右に分かれるわけですが、これ合わせて私ども両方私たちが掘って4.6キロと書いてありますが3キロ弱、千石斜坑から今度は本坑、先進坑を掘ることになります。大体ペースがですね、トンネルを掘る人たちの技術者のペース、相場でいいますと、順調にいつて、大体月進100メートルと言われてます。そうなるんですね、この西俣から掘ると、掘り始めると、65ヶ月。5年5ヶ月かかるって感じであります。千石から掘ってもですね、60ヶ月弱。5年近くかかるっていう形になります。それでいいかという、それができてから、リニアの中のガイドウェイという線路に相当するものを作って、最終的な試験をしなくちゃいけないということが出てきて参ります。そうしますとですね、それが大体2年ぐらいかかる。足し算しますとね、それだけで西俣の場合だと、5年5ヶ月に2年で7年5ヶ月。今の時点、20年の6月の末ですから、27年の12月まで7年6ヶ月。もうほとんどぎりぎりなんです、それに加えて斜坑（(注)「ヤード」の言い間違い）を作ると。ちょっとはみ出るくらいなんです、でも何とか途中工夫を少しずつ工夫をしてですね、収めていけるかなと、今ならぎりぎり収めていけるかなというのが今の時期でございまして、合わせると、西俣の斜坑（(注)「ヤード」の言い間違い）が大体、大分途中までできてますので、あれを完成させようと思うとあと3ヶ月。それから千石の方はこの間、現地をご覧になったと思いますが、あそこはまだ、場所を決めてるだけなので、8ヶ月から9ヶ月ぐらいかかるんじゃないかと言われてます。こっちも両方やったり7年と7、8ヶ月足し算するとなってしまうんですが、何とか収めて今、今手をつければ、ぎりぎり何とかかなってというのが今のタイミングだということが一つ。それで、その上でですね、ぜひそれで斜坑を掘らせて（(注)「ヤードを整備させて」の言い間違い）いただきたいということで斜坑（(注)「ヤード」の言い間違い）も、知事、ご覧になってると、何度かご覧になってると思いますが、この斜坑（(注)「ヤード」の言い間違い）はですね、特に皆さんがお叱りを受けるというか、駄目だよって言われるのはですね、有識者会議は行ってるうちにヤードを作るというのはおかしいじゃないかと。あるいはヤードを掘る（(注)「作る」の言い間違い）とですね、ヤード整備を認めるとそのままずっとトンネル掘り始めるんじゃないかと。そういうご意

見というかお話があつてということだと思います。西俣ヤード、大体以前ご覧になったことはあるかと思いますが。

(知事)

行っております。昨年の6月13日に行っております。

(金子社長)

ありがとうございます。大分仕上がっております。

(知事)

いや、今跡形もないですよ。

(金子社長)

私もこの間見てきましたが。

(知事)

もう流されてますからね。

(金子社長)

この赤いところが崩れているような格好になっていて、平面のところのこの辺りはできてるんだけど、ここもう一回補強しなくちゃならない。

(知事)

そこに行く道が崩れてるじゃないですか。

(金子社長)

今そこを、何とか月末までに直そうということでやっています。それから、千石はまだできてないということなんですが、このトンネルの掘削、これをめぐってですね、なかなか言葉の使い方がどこまでが準備工事でどこまでが本体工事かというようなお話もあつて、これって工事に意味づけをする話になるので、なかなかちょっととり方が難しくなるんですが、ちょっと私の説明ではですね、そうではなくて、トンネルを掘るのか、掘らないのか。そういう、そういうものだというふうに言ってご理解いただけないかなというふうに思います。私たちがやろうとしているのはヤードっていう、平面なところを作りまして、それからいくつかの土砂を入れるようなピット、濁水処理をするピットみたいなものを作って、それから、坑口については、掘るのではなくて、樹木を、予定地の樹木をこういうふうにとり除きまして、どっちかというところに土盛りとか土を、補強して崩れないようにしておく。そこまで私たちは今回やらせていただきたいと思います。有識者会議の関係でいうと、有識者会議はですね、なんていうか、今一番皆さんのご関心は、トンネルを掘ると、トン

ネルを掘ると、必ず水が出るじゃないかと。その水はどうやって大井川に戻すんだと。或いはトンネルを掘ると、掘ると、これは地下水に影響するだろうと。どう影響するんだと。小さいのか大きいのか、ないのか、いろんな見方がありますが有識者会議にご議論いただこうということなんで、トンネルを掘るということは、そういう議論を一つ整理をしないと駄目なので、私たちはトンネルは掘りません。それからなし崩しと言われても、これは、制度とか仕組みとか言う前に、工事の責任者は私であるので、私はこれは掘らないと。知事に申し上げるわけですから、なし崩しで掘るなんてことは、これはありません。

(知事)

なるほど。

(金子社長)

そういうことですね、ぜひ今のような事情ですね、ヤードの整備をちょっと、お認めいただきたいという、ご理解いただきたいというのが今日の主旨です。あとちょっとだけお話しさせていただくと、これ繰り返しになりますけれども、やっぱり東海道新幹線のバイパスをやっぱり急がなくてはいけないという話の一つとですね。それから、このプロジェクトについて、私たちも一生懸命やるのは当たり前なんです、私たちと一緒に一生懸命やってる沿線の都県の人たちともやっぱり足並みをそろえたいという気持ちがあります。それからもう一つは、これをやると、リニアは必ず大きな効果があるというふうに確信をしてるということがあります。今日はちょっと時間がなくてお話できませんが、先ほどちょっと知事がお話なさったようにですね、リニアができると、静岡県は、新幹線が17駅中6駅ありますから、そのやっぱりひかりをどう停めよう、列車をどう増やそうという話が、やっぱり必ずメリットがある結果をもたらすことができると思います。そういう議論はまた別の機会にさせていただきたいと思うわけですが、私も今日はそういう話をしちゃいましたが、リニアについてですね、力を入れて語るとですね、そうじゃなくて、同時に環境の問題、水の問題を忘れてないかと、というようなことをいろいろ注意されたり、そう言われてしまうんですが、それはしっかり、水の問題、それから環境の問題にしっかり取り組むと。ということで、このメモにも簡単に書かせていただきましたけれども、こういう実現と。中断ですね、環境への影響の回避していくことについては、やっぱりご地元の県とですね、私どもやっぱり共通認識の下に進めなくてはいけないと、いうふうに思っておりますので、まあ、ぜひそういうことを、少しベラベラしゃべりましたけれども、そういうことをちょっと御理解いただきたいと思っております。

(知事)

いや、ともかくね、日本の大動脈を支えてらっしゃるその最高責任者ですからね。私どもも、はいどうぞ。これはですね。大井川の水で作られた牧之原台

地のお茶で、しかも、今年は牧之原台地のお茶を宮中に献上いたしました。そのお茶です。

(金子社長)

なるほど。恐れ多くて飲んでいいのかと。

(知事)

牧之原の水は、皆、大井川から得てるんですね。その農業芸術品です。どうぞ。私もいただきます。まずですね、社長さんの方からね、水の問題について、疎かにしてないということを聞いてですね、大変、力強いといえますか、安心いたしました。この大井川っていうのはですね、昔は越すに越されぬ、と言われていたんですけれども、例えば木曾三川。木曾川とか揖斐川とかございますけれども、もうそれと比べるとですね、稜々たる水量なんですね。しかし、これはですね、60万人の方たちの命の水になっております。

しかしですね、喝水がですね、しょっちゅう起こりまして、今ちょっとここに資料持ってきたんですけれども、この表がございますがね。例えばですね、平成30年、2年前ですね。これはですね、147日間の節水をお願いしてるんですよ。それから例えば平成7年ですと、189日です。

(金子社長)

平成7年。

(知事)

平成7年。それで、平成30年、つまり2年前ですね。これ147日。こういう状態だと。流量がいかに少ないかは、2ページに書かれておりますけれども、もう本当にこの木曾川や長良川と比べるとですね、小川に見えるくらいに少ないと。そして3枚目でございますけれども、地下水ですね先ほど地下水のことも言っていたいて、大変、力強かったんですが、この地下水はですね、利用している事業所が430あります。そこが一千本の井戸を掘っているんですね。実はですね、そのうちの一つがですね、伊勢志摩サミットで使われたのが磯自慢ですけれども。その磯自慢がここがございます。

(金子社長)

はい。

(知事)

これ磯自慢。こちらにあるのが牧之原のね、今年の献上茶です。今日は、お土産に。

(金子社長)

お土産にいただけるのですか。

(知事)

もちろん。これはね、声なき声。住民の人たちがね、私はですね、この牧之原市長さんからですね、これは牧之原の心の結晶だと。これを金子社長にね、しっかり味わっていただきたいと。それからこの磯自慢はですね、あまり大きな声で言えませんが、一本10万円以上するものです。プレミアムがついてですね、数十万円するんですよ。そうしたものがですね、豊かなこの地下水によって育まれていると。いうことなんですね。ですから、あの、工事をして必ず戻すということと、一度失われた水は戻らないってことは、あの昔の東海道の、あの箱根のね、丹那トンネルのところですね。

(金子社長)

はい。

(知事)

あそこで、芦ノ湖の水の3倍の量が失われた、というふうに言われておりまして、それは、結果的にですね、そこにあった水田或いはワサビ田が全部枯れ上がってですね、今、牧草地帯になって、丹那牛乳を作ってるんですが、戻ってこないということがあって、そういう経験してると。それからダムを作って結果的に大井川の場合はですね、水が枯れてしまって、水起こせ運動という本当に静岡の人ってのはおとなしいんですね。そういうおとなしい方たちがですね、筵旗を立ててやったという。そういう経緯がございます。ですから、水の問題について、私はもう、流域の市町、60 数万人の方たち、そしてまた、今はもう静岡県民の方たち、それからまた井戸水に頼っている全国の方たちですね。そうした人はですね、同じ思いを持っているので、そのトンネルを取るか、水を取るかと言ったらですね、もうあの結果はわかっているので、この点については、よほど注意してやっていかなくちゃいけないと。ただですね、社長さんがおっしゃるように、東海道新幹線、これは1964年10月1日に開通いたしまして、それまで富士山、芸者、そして桜だったのがね、芸者が落ちて。申し訳ないけど、芸者さんには。富士山と桜吹雪の中を新幹線が疾駆すると、これで日本がですね、技術立国になったと。その10日後には、オリンピックが開催されましたから、まさにこの世界に、日本が技術の国だということを知らしめた非常に重要なもので、これを抜きにして日本の経済は成り立たないと。そうした中で、リニア新幹線。この、日本の技術でね、作ったということで、私は乗りましたよ。ちょうど朱鎔基っていう人が来る直前でね、所長さんが、現場ですよ。甲府から大月だったんですけども。これは朱鎔基さんがひょっとすると中国で欲しいと言うかもしれないとね、で政治家がそういうことを、リップサービスでやったらですね、自分たちは何のためにこれやってきてるかわからないと、止めてくれと言われてですね、私、当時経済局長長官されていた堺屋さ

んにですね。

(金子社長)

はい。

(知事)

小淵さんにこれは決してこのリニア新幹線についてはですね、技術移転などしないように、日本の技術の成果だと言ったこともあったわけです。ですから、私は基本的にもう国土審議会の委員もしておりましたから、この計画には全面的に賛成で、そして、ルートが決まった時にはですね、5月だったと思いますけれども、2011年の5月、連休の時に、二軒小屋までいきまして、そこからさらに1,500メートルです。二俣に入る直前のところですね、そこから500メートルさらに上がってですね、どこを通るのかと。これは相当深いところだと。その土をどうするんだと。でまた改めて、泊りがけで行きまして、それこそ今燕沢だとかね、あれじゃないですか、そういうところが。土捨て場としてね。残土置き場として、できるということを関係者に伝えたぐらいです。つまり私はですね、本当に不明にしてですね、水の問題について、2011年段階ですね。本当に不明、だから知りませんでした。ですから、今それを恥じいつているんですが、一方で、この水がいかに重要かっていうことは今は知っておりますのでね。だからリニアというものを反対してるわけではありません。これ日本の技術だと、と同時におっしゃってるように危機管理においても、重要な役割を果たすと。雪が降っても、雨が降ってもですね、地下鉄ですからね、基本的に。空飛ぶ地下鉄。

(金子社長)

ありがとうございます。

(知事)

だからね、そういう意味ではですね、これは本当に、先生、金子さんがおっしゃるように、夢のあるものなんですよ。それをどういうふうにもこの両立させるかと。ただですね、今申しましたように、南アルプスは、そういう状態なので、さて、この南アルプスの水はですね、失われないようにできるかどうか、これが今、有識者会議でやっていたらいます。

それ以前に私どもは専門家会議を立ち上げまして、専門家の方たち、これはあの、南アルプスはユネスコのエコパークになりました。富士山がなった年、だったかな、その翌年かになったんですよ。ですから、世界の財産になったわけですね。ですから、エコパークというのは、正式名称はバイオスフィアリーザーブと言いまして、生物圏という意味。生きているものたちがいるところですと。これを大切にするのがこの人類の財産ですから、日本の、あるいは、その預かっている私どもの役割だと。ですからこれ、国策なわけです。環境省が

やっている。ですから、リニアも国策だと。それからまた、環境を守るのも国策だと。ですから、両方ですね、いかに両立させるかということをおどもは考えないといけないと思っているわけです。

(金子社長)

おっしゃる通りで、やっぱり人によってですね、いや、これはリニアを取るのか、環境を取るのかと言われちゃうと、それは話が、やっぱりおさまるところがなくなって。

(知事)

そうですね。

(金子社長)

おどももですね、私はリニアが大切だというと、じゃあお前環境のことを考えてないのかという、そのことはないですよと言うんですが、なかなかやっぱり、あの、声が、リニアの声は、大きく言ってるわけじゃないんですが、やっぱりそういうふうには受け取られがちな側面があります。私たちもやっぱり環境を非常に大切だと思って、これを保全をしながらやらないと進まない。この認可を受けるときもですね、当時の太田大臣から、まあこれはやっぱり、工事は安全が大切だと。環境の保全ももう一つしっかりやってくれと。そして地域との連携をしっかり取りながらやってくれというのがですね、認可をいただいたとき、前の社長が受け取りましたが、私もそばにおりましてですね、それ以来そういう気持ちでずっとやってきております。あれか、これはっていう話ではなくて、両方っていう話なんだと思います。それで。

(知事)

それは同じです。私もね、聖徳太子ではありませんけれども、和を以て尊しと成すっていうじゃないですか。で和とは何ぞやって。例えば、1と2の和は3でしょう。3と5の和は8でしょうと。足すことなんですね。ですからこの、中間とか、あれかこれかっていう二者択一ではなくて、両方合わせて、なおかつ調和してると。

(金子社長)

はい。

(知事)

大きな和と書けば、大和でしょ。

(金子社長)

はい。

(知事)

訓読みすればヤマトでしょ。だからこれ日本の心なんですよ。ですから今、社長さんと私も同じ気持ちを持ってましてですね、このリニアがどういうふうにすると実現可能か。同時にですね、南アルプスという我々にとっての水資源、それによって生きている生物、それからまた、何ととっても人間ですね。もうあの、その人達を守るというための南アルプスをどう両立させるか。つまり和をどう作るかという、同じ考えであります。そして今ね、国交大臣のこと言われましたけどもですね、国交大臣が今おっしゃったように、国交大臣意見として、地元の理解と協力を得ることが不可欠であると。これは太田大臣が言われてるわけです。事業説明会、工業説明会等の場を活用して丁寧に説明なさいと。環境保全に関するデータや情報は最大限に公開し、透明性の確保に努めなさい。それから水道用水、農業用水、工業用水、発電用水等、利用されているので、河川流量の減少は、これは大変な重大な影響を及ぼす恐れがあると。従って、必要に応じて精度の高い予測を行い、その結果に基づき水系への影響を回避せよ、とこう言われてるわけですね。それからまた、環境大臣はですねもっと厳しいですよ。これはもう相当な環境負荷が生じると。我が国を代表する優れた自然の風景地であると。南アルプス国立公園であると。エコパーク、ユネスコエコパークとしての利用が見込まれてるから、当該地域の自然環境を保全することは、我が国の環境行政の使命であると。また、発生土の適正な処理、希少動植物の生息地、生育地の保護、工事の実施に伴う大気汚染、騒音、振動対策等、本事業の実施に伴う環境影響は、枚挙にいとまがないと。だから環境保全について十全の取組を行うことが、本事業の前提であると。これはですね、しっかり書き込まれていてですね、その責任を JR 東海さんは負われていると、私どももこういう方面でですね、全面的に協力をしたいと、こういうふうに思っております。

さて、そのヤードはですね。ヤードですけども。美味しいでしょお茶。

(金子社長)

ありがとうございました。

(知事)

ちなみにね。

(金子社長)

はい。なかなかちょっと知事の熱い話を聞いているだけで。もうちょっと残っていますので。

(知事)

これは賤機焼きといいまして。

(金子社長)

いろんなものをご存知で。

(知事)

徳川家康さんの時にはまだ、いわゆる磁器、ポーセリンがなくてですね、陶器なんですよ。彼はこういうので飲んでられたということでもあります。

(金子社長)

今、あの。

(知事)

それで、工区の件。

(金子社長)

はい。

(知事)

西俣、千石、あるいは燕沢あるいは榎島ですね、行ってみました。

(金子社長)

ありがとうございます。

(知事)

これは昨年6月13日、それから今年6月11日に行ったんですが、昨年の台風11号、19号ですね、あれの爪跡がまだ残ってましたね。ただ、前回も今回もね、もう盟友といったらいいと思うんですけども、宇野副社長がね、同行してくださったんですよ。そして現地の方がですね、今回の場合は、雨嵐の中だったんですけども、もうあそこの働いてる人は実に立派です。

(金子社長)

そうですね。

(知事)

そしてしかし、こっから向こうに行くのにね、いわゆる三ツ峰落合線を通っていくと。これは危ない道ですね。47キロありますから。そこからいわゆる畑薙ダム、つまりいわゆる林道に入る。そこから27キロの奥に、いわゆる西俣のヤードがあるわけですね。ですからもう大変な奥地なんですけども、その去年、宇野さんが約束してくださった道路がですね、V字型ですから、石や岩は落ちてくるしね、非常に危ないと。あの時はパンクしましたから、私の車が。ですか

ら、あそこでしょっちゅうなわけです。それを直してくださいって言ったら、すぐやりますということで、それはあの、幾分か直ってました。

(金子社長)

はい。

(知事)

特に沼平のところからきっちり舗装がされてですね。ただまあ 5~60 メートルでしたけれども、そこ先に行くともう河川敷におりないといけないと、もう道路が土砂で埋まってるもんですから。

(金子社長)

雨の影響ですよ。

(知事)

すさまじい。ですからずっと河川敷を行って、それから畑薙ダムっていうところのちょっと上流にいわゆる畑薙湖がありますが、畑薙橋ってのがあってすよね。そこを渡らないといけぬ。というのは、まっすぐ行くと赤崩です。

(金子社長)

そうですね。

(知事)

本当にこれ危ないですから。渡って赤崩を見ると、もう去年もすごかったですけれども、今年はまだ赤崩がですね、この間の台風の影響で、もっと崩れてですね、降りても、水が見えないですよ。

だから水の見えるところまで、つまり河川の中をですね、私ども皆歩きました。宇野さんも一緒です。

ですから、河川の幅がですね、このぐらいですよ。そのところは。

(金子社長)

はい。

(知事)

でも、上、上からと、台風の上流からの土砂と赤崩の山崩れですね。

(金子社長)

私も少し前に行ってみてきました。

(知事)

よくご存知の通り、そういう状態でしょう。それでさらにそれにもかかわらずね、樫島のところで、前に河川が削られたところがあったところを、作業の方たちがね、元に戻すということをやっておられました。

(金子社長)

はい。

(知事)

そして、それからさらにこういくと燕沢っていう、いわゆる 70 メートル近い土砂で、東京ドーム 3 杯分ぐらいのものをそこに置くというところ、燕沢はご存知のように、もう自然崩壊が起こってですね。

(金子社長)

沢のところです。

(知事)

砂防ダムで止めてるんですけども、もうそれを通り越して、10 メートルくらいもすでにあるわけですね。まだ、工事の、これは残土ではありませんで、山で崩れた残土です。ここに置くって言われてると。それからもう西俣の方は、あの残念ながら今回はそこまで天候の影響で入らなかったんですが、写真を見せていただきまして、その道路は崩れてるし、それから、西俣ヤードでお作りになったいくつかの施設ですね、こうしたものが流されちゃって、一部は畑薙まで来たっていうんですから、ものすごい水だったんだと思います。ですから、これはどうするかっていうことで、だから、今工事ができる状況ではないことは現場を知ればすぐわかりますが、そこで働いてる人もですね、安全をどう守るかっていうのはですね、150 人働いてらっしゃるんですよ、今。でそのうち全部と言っていいぐらい、ほとんどすべてがですね、東京から来られている JR 東海さんの偉い人を別にしますと、静岡県民なんですよ。あそこでもしですよ、上から石が落ちてきて頭にけがしたと、救急車入れないです。ましてヘリコプターは入りません。V 字型ですから。ですから、安全というのはですね、金子社長のお手紙にもありましたけれども、本当に重要だと。ああいう険しい、しかも生きた自然というのを実感できるようなですね、南アルプスの大井川の谷で、過酷な仕事をせざるをえないと、そこはまずですね。やってもらわんといかん、というふうにこれは前から申し上げました。

(金子社長)

承知しました。私どもも、知事、県民とおっしゃいましたけれど、私たちからすれば、仕事をお願いしている施工会社に実際に私たちの社員もそこで今働き始めます。他人事では全くありません。

(知事)

そうですね。

(金子社長)

それで、今、なかなかこういう条件の悪いところではあるんですが、まずはそういう道路。道路はすぐにはできませんがだんだん直していくと。あそこの直していただいた、特種東海のご努力もあってですね、少し乗り心地が前よりも良くなってんじゃないかと思いますが、根本的には下からだんだん舗装していくと。それからもう一つはですね、今救急車も入れないという話があって、なかなかあそこは大成建設なので、これどうしようかってやっぱり知事のご心配のように、私たちも心配なので、樫島に医務室を作ろうと。それで、お医者さんまでは置けないけれども、看護師さんと救急救命士さんというのを置いて、静岡市内の病院と常に連携を取れるようにしておいて、それで、もうそこで応急の処置をして、とにかく沼平までは連れてくる。沼平までは救急車が来てくれる。それからあとは、天候が少し許せば、或いは場所がいいところもあればですね、静岡市内からヘリが飛ばせますから、天候がいい日はそういうことも活用しようということですね、安心ができるような形にしていこうと。道はですね、こういう天気の荒天の時は避けるしかありませんし、あるいは行き違いとか落石はよほど気をつけて、現地は現地で、そういうことに慣れた人達がやってくれているんですが、その上でも気をつけて。本当に知事は知事の立場で、私は私の立場で、本当にまったく他人事ではありませんので、一生懸命やろうと思っています。それから道路の舗装なんかも、時間が掛かりますけれども、着実に進めていけば、私も行って、沼平からしばらく行って舗装すると随分違うなど。疲れも違いますし。

(知事)

全然違いましたね。

(金子社長)

これが山道なので、施工性みたいなこともあって、静岡市内からアスファルトを運ぶと、冷えちゃうとか、そういう話があってですね。なんとか早くできないかと工夫をしているような話も聞いてきましたけれども、なんとか早くして、少し条件を整えて、今は雨でその道路が崩れちゃって、河川を通ってますから、大変、緊急、異常事態なんですけれども、それを早く元に戻して、元の道を強くしていくというのを早くしなきゃいけないとは思っています。ただ工事中は全部それを待っている訳にもいかないの、気をつけながら、さっきの救急体制なんかもとりながらですね、安全に気をつけてなんとか進めていきたいという風に考えていますし、他にそういう手があればご示唆いただいて、色々やっていきたいと思っています。

(知事)

救急車も沼平までとおっしゃったわけですがけれども、畑薙の所ですね、ダム
の所まで、三ツ峰落合線、落合から沼平までですね、山の中を 47 キロ行かなく
ちゃいけないですから。

(金子社長)

そうですね。

(知事)

しかも一本道ですから、交差が難しいですよ。こないだ私どもは、その
道を通って、帰りは閑蔵線を通って帰ってきたんですがけれども、帰りですね、
そこに倒木があつて。

(金子社長)

そうですか。閑蔵線にですか。

(知事)

違います。三ツ峰落合線です。だからね、どうしてあそこを選ばれたのかな
と。私帰り閑蔵線を通ってきたんですがね、三ツ峰落合線ですと 47 キロのうち、
4.65 キロか、1 割ですね。それをトンネル掘られると。残土どうされるのかな
と。置くところないでしょう。それから、閑蔵線は 2.5 キロですよ。そして片
側 2 車線でしょう。だからね、そちらの方が、人の安全にはいいのかなと思っ
たんです。あれどういう理由だったんですか。

(金子社長)

あれはですね、実はですね、両方選択肢は本当にありました。あつてですね、
閑蔵線は実は少しずつ手が入っているという所ですから、私も通りましたけれ
ども、手が入った所は本当に 2 車線でいい感じ、狭い所は急に狭い、という感
じですよ。こっちの三ツ峰落合線から南アルプス公園線っていう所は、峠を
越えるような格好になっていて、なかなか、日頃通っている人はもうちょっと
早く進みますけど、私達が行くとゆっくり行くしかないということになる。

(川勝知事)

霧が出ますからね。夕方は。凄まじい怖い所ですよ。

(金子社長)

私達はあそこの井川の人達に何回も住民説明会をやって、閑蔵線でどうだろ
うかというご提案をしたんですが、これはこっちのトンネルを掘って、静岡市
に短絡してもらうのが悲願だとおっしゃるんですね。

(知事)
なるほど。

(金子社長)
これはこっちじゃなくて、井川から静岡に短絡してもらうのが私達の悲願だということで、これはもう固いものがありましてですね。

(知事)
なるほど。

(金子社長)
私達から言うと、実はお金はどっちがかかるのかというと、閑蔵線の方が実は費用的には安くあがるのにと。

(知事)
2.5キロですからね。

(金子社長)
そっちではダメですかと。ダメですと。そこの終着点にいらっしゃる井川の方々のこれはもう強い強い話だったので。

(知事)
なるほど。

(金子社長)
それじゃあ、わかりましたと。本当に当時出たのがですね、昔はここで病人が出たときに、あそこの道を越えて私達は苦勞したんだと。トンネルがあれば早く行けたんだと。いう話をおっしゃるお年寄りの方々もいらっやいましてですね、そういう話を聞いて、決心したということで、御理解をいただきたいと思えます。

(知事)
ともかくね、井川に出るのに、井川に行くまでに、山の中に入らないといけないと、そういう過酷な工事です。そして安全の事を考えるならば、色んな選択肢を当然お考えになったということで、作業道の安全はですね、是非、今、27キロのうちね、今年中に7キロぐらいかな。

(金子社長)
3年間でやり遂げようと思っています。

(知事)

3年間でやるとおっしゃっていましたが、それは強く期待しておるところであります。それからね、先ほどおっしゃった危機管理の件なんですけれどもね、私どもはなにか、社長さんがね、どういうことか知りませんが、静岡県が2027年開業のね、足をひっぱっているかの如き、発言を繰り返されているのをですね、聞いてですね、ちょっとそうかなと。

(金子社長)

それはどういうことでしょうか。

(知事)

例えばね、ちょっと申し上げますと、例えば、名古屋駅周辺の用地買収が難航してですね、2019年3月までの用地買収、これがですね、2021年3月まで延伸されたとかね。それから山梨県の南アルプス市では、補償訴訟が起こっているとか、またやっぱり長野県南部の大鹿の所で、残土処分地の確保が難航しているとか、それから笛吹市では水源の枯渇が起こっているとか、それからまた岐阜県の中津川市ではですね、トンネルが崩れまして、それで斜坑でしょう。だからあちらこちらで起こっていることを全然言わないで。

(金子社長)

知事、なぜ静岡の事に急ぐ急ぐと申し上げたのは、先ほども説明したとおりです、地上の話とかですね、そういう話はまだ切羽詰まってないんです。いろいろ難しいところがあります。

(知事)

はい。

(金子社長)

トンネルは掘り始めて先ほど西俣から掘って、もう長野方に一番かかるのはですね、ここは6.5キロ掘らないことには終わらなくて、それを掘るのに6年、5年ですね。それだけで5年かかってしまって、一番最初に締め切りといいますかですね、2027年に向かったの最初の締め切りが来るという切迫感からですね、ぜひここは早く着手をしたいということでですね、静岡のことについてはぜひ早く、早く着手ができないだろうかと申し上げてるだけです。

(知事)

ただね、トンネルのことをおっしゃったけど、例えば長野県のね、大鹿村。ここです、除山という非常口の作業用トンネル。これがですね、難航してですね、2年半経過したと。2018年度初めに完成予定であったが、現時点では

未定であると。これも新聞で報道されてます。或いは岐阜の中津川では、工事は1年半遅れで始まったと。しかもこれ斜坑です。ですから、これトンネルですよ。ですからね。特に名古屋駅もそうじゃないですかね。ですからね、何か他のところは全部順調に進行して、こちらの県は、お宅様がしっかり答えればですね、1年半待たせるとかですね、答えが出るのにですよ。一体どうなってるんだと。だから国交省も重い腰を上げられたというふうに思ってるんですが。

(金子社長)

いやこれは、その静岡県の知事のところが何かですね、特にそういう何か原因が静岡県のせいだと申し上げてるわけではなくて、先ほどから申し上げてるように、一番長い、そういう、工区の、これかかるので、一番最初に締め切りが来てしまうという、そういう事情で私は切迫感から、申し上げてるわけです。やっぱりここまで来て、なかなか今20年6月っていう時期まで来て、一番の最後の締め切りが、今のところ私たちの気持ちとしては、ぜひ27年末までに何とかって思ってる時にですね、一番最初に締切が来てしまっていて、そういう話です。ぜひそういうふうにご理解いただいて。

(知事)

ちょっと私もう一つお聞きしようと思ってたのがですね。今、事情わかりましたけれども、愛知県、長野県、山梨県、或いは相模原でのね、マンションの人たちの立ち退きとかね、今、難航してるじゃないですか。ですから、こうしたことはですね、あまり表に出ませんが、大変難しい、課題をね、工事現場の方たちが抱えてらして、南アルプス問題だけではないということですね、ぜひご留意賜ってですね。それから、例えば学校の試験でもね、不得意なものからきっちりこうやっていって、それが得意なものはパッと後からというものもあるし、或いは不得意なものがなかなか駄目ならば、もうそちらはもう0点でもいいから他のところで100点取るとかね。いうふうな、いろんなやり方があるじゃないですか。で一つその件でですね、これまさに技術でしょう。日本の。この技術をね、世界に見せるチャンスがですね、オリンピックだったわけですね、1964年の時には、だからあの時日本の技術者はですね、10月1日、に間に合わせて、10月10日の開会式までにですね、きっちりこれをサービスを提供しようということで頑張ったわけですよ。それで2011年に今度のリニアについては、ルートが決まりました。それから数年後にですね、東京オリンピックが決まったわけです。だからルートが決まった後に決まったわけですよ。東京オリンピックの今年本来はね。それについてですね、リニアを何か宣伝に使うっていうふうな、お考えが全然出てこない。それからさらに言えばですね、南アルプスがユネスコのエコパークになりました。じゃあそれをどうするかっていう意見もないと、とりあえず国策とおっしゃって、2027年の開業というのがもう、それ以外一切他のことは、これいらないかのごときですね、ご方針のようですね。

(金子社長)

それはちょっとなんか話せば長いことながら、オリンピックがあればですね、きっと世界の方が日本にたくさんお見えになったはずです。今私たち、リニアっていうのはですね、どこにでもつくれるものでは実はなくて、アメリカで今計画をしています。やっぱり大きな都市と大きな都市を結ぶ。特にニューヨークとワシントンを結びたいという計画があるんですね。これはやっぱりですね、まだ実現をできてないものですから、どうも車社会の人たちにはですね、ピンとこないということがあるので、新幹線で今ですね、既存の新幹線ですら、アメリカ人は、おっ、こんないいものがあるのかっていうところがあるんですが、ぜひ本当は山梨の実験線でデモンストレーションで本当は乗っていただくというふうに計画をしてたんですが、オリンピックがあんな形になったんで、しりすばみになりました。

(知事)

なるほど。実はね。この件ではね、私全国知事会で、平成 28 年福岡であった、全国知事会でですね、発言を求めましてですね。一番最後のやつにこうやって書いてありますけど、例えば甲府まで行くと身延線っていうのが東海道と結びついていると。それでね、飯田線が東海道と結びついていると。それでね、東京からね。或いは相模原でもいいですよ。そこから甲府まで来ると。で、甲府から世界で最も遅い特急電車、身延線。それでね、静岡駅まで来ると、静岡まで来ると既存の新幹線乗れるでしょう。そうするとそれは何かというと、富士山一周なんですよ。東京から地下鉄でね、空飛ぶ地下鉄で 500 キロ出して、でおそらく 15 分、20 分でですね、甲府に着くと。出たらですね、南アルプス、富士山、八ヶ岳、秩父連峰、駒ヶ岳、これアリスインザワンダーランドです。トンネルを抜けたらね、雪国じゃなくて、桃源郷ですよ。そこからね、この南アルプスと富士山の間には富士川が流れておりますが、その沿線、春夏秋冬、綺麗です。そこをこう、世界最速と真逆の特急列車に乗って、それで静岡まで来て、既存の新幹線で帰るというのはそれ自体がですね、つまりビジネスではなくて、観光なんですね。その逆も。

(金子社長)

観光ありますね。

(知事)

ですからね、そういうことならば、関東地域は関東ローム層ですから地質構造が分かっているんで、もちろん土地の取得っていうのはいろいろ問題あるかもしれませんが、一応大深度ですから基本的に土地の取得は問題ないと。あとは、そういうことをすればですね、リニアをなんていいますかね、活用して、若干の収入も入るし、人々を喜ばせるし、オリンピック、との絡まりでね、できる

と。こういうなので、平成29年の関東知事会でも申し上げまして、山梨県知事さんなんか大賛成ですね。

(金子社長)

そうですか。

(知事)

ですから、そういうね、あるいは長野県まで、愛知県から掘っていくと。それから、東京から甲府まで完璧にすると、ちょっと今ここは科学者が今回のコロナウイルスではありませんけど、科学者の意見をしっかり聞かないと、後で禍根残すわけですね。それやってるわけでしょ。ですから、それがすぐに結論が出るかどうか難しいと。ですからできることをやるというのが一つのフレキシビリティというか柔軟な会社運営の、余計なことを申し上げましたが、ただ、日本のためにも私も同じく国のことを考えながら仕事をしておりますので、そういうふうにするね、富士山1周でリニアということであれば、その間に、昔のお考えでは、名古屋までまず作って、そこでそれなりの収入を得てそれをこの大阪まで延伸するときに使うということだったんですが、そういう一つのビジネスモデルもありますけれども、せつかくですね、富士山が世界文化遺産になった。そして南アルプスがエコパークになった。リニアがあつて、それからさらに危機管理なんですが、数年前にですね、甲府盆地は雪に閉ざされたんです。

(金子社長)

そうでしたね。はい。

(知事)

3日3晩ですよ。我々ヘリコプターで助けに行ったわけです。あの時に仮にですよ、リニアができてれば地下鉄で逃げられた。地下鉄で助けに行けたんです。ですからね、リニアの持っている、その危機管理といいますか、リダンダンシーというか、これは私は十分に承知しているもので、その活用の仕方はね、やっぱり金子さんのリーダーシップで、例えば富士山一周なんていうのは夢がある話ではないかと。

(金子社長)

ただ知事ですね、やっぱりリニアの妙味はですね、やっぱり東京から、まずは大阪まで直結をするというところが大変大きくて、やっぱりご利用されるお客様はですね、もうそこが圧倒的だと思います。そののところを早く作ることによって、あともう一つ、今知事がおっしゃったようにですね、山梨からどう活用したらいいだろうとか、そういう或いはその飯田からどう活用したらいいだろうか、そういうことは当然考えなくてははいけません、一つの大きな、や

っぱり直結をさせると、それから、やっぱり施設のにもですね、やっぱりどっかに指令所を置いたり、どっかに車両所を置いたり、つまりワンパッケージなんですね。そういうことなので途中だけ作ってもですね、なかなかこれをこっただけ残す、こっただけ動かすっていうことはですね、また、初め作る予定じゃなかったような施設を作らなくちゃいけませんでしてね、なかなか運営したいところがあって何とか早く作りたい。それで今日のお願いの筋のヤードの件は、知事、やっぱこれはなかなかここですね、先ほど申し上げてなんか、急かすようで大変申し訳ないんですが、今ここでなんていうか、水の件についてはですね、有識者会議でご議論をいただいて、そうじゃないと私達トンネルは掘りません。掘りませんが、有識者会議で何かある種の整理、方向性が出たらですね、その時には素早く次のステップに行けるような準備だけはしておきたいということで、ヤードの整備をお願いをしているわけです。

(知事)

有識者会議はね、申し訳ありませんけれども、国交省が JR 東海さんにご指示をされるために作られてる会議で、我々は一方で水資源、あるいは生態系、地質、こういう専門の先生がいらして、それぞれの先生の代表が有識者会議に入ってらっしゃいますけども、専門家会議に持って帰ってきまして、そしてここですね、地元の方々にご説明をして分かっていたいただいたということがですね、次のステップになると。有識者会議は、会議のエンドではありません。

(金子社長)

そうすると、もう一つ、私たちのヤードの整備というのは、実はそれ以前の問題で、それ以前の問題で、水の問題でトンネルを掘って湧水が出る、或いは地下水に影響が起る、私たちはそれ以前の話だけはですね、ぜひ整理をして、今知事がおっしゃったようなこの有識者会議の整理、専門部会の整理、また県、或いは国交省どういうふうにお考えなのか、私たちはちょっと整理はあるとしてもですね、それ以前のところまではぜひ着手をしておきたい。そのご理解を今はですね、いろんな手続きあるにしてもですね、今この地主さんが、これは静岡県の中央新幹線対策本部長、副知事がやられてるんですが、そのゴーサインが出ないと。私は同意はしたけども留保されている。ここはもう実質的に静岡県のご判断なので、ぜひここで、知事の、そこまではやっていいよという話であればですね、そこまでは進めて、その先またよくわかんないんですがその先、その先に今度はスムーズに、その先掘っていかどうかっていうのはまた別のプロセスはあるんですが、今駄目だと言われちゃうとですね、今ここで2027年は、難しいなど、もう駄目かというふうなことになってしまって、本当にこれ一生懸命一緒にやってる他の都府県の人達ともですね、そういう責任もありますし、もっといろんな機会があるからなかなか残念だなということでして。

(知事)

わかりました。一つはね、東京から名古屋を経て大阪まで結んで初めてスーパーメガリジョンという、世界屈指の大都市を作るという、1時間ちょっとで結ぶと。この構想自体がですね、今、今来のコロナウイルスの関係でね。例えばそうですね、河田先生。新幹線に乗らなかったろうと。飛行機も乗らなかったでしょうと。誰がリニアに乗るか。それからですね、中央環境審議会会長の浅野先生、リニアが許されるのかと。或いはですね、水野和夫法政大学先生、新型コロナウイルスの時代に、時代遅れだとかですね、ですからリニアはですね、今そんな大阪までやって2035年でしょ。今ね、そんなこと言ううちに、安倍首相もオンラインの進めると。この間、今、大体半分ぐらいの人がですね、オンラインにやらされた。そのうち70パーセントの人はオンラインでやっていくと。だから、オンラインの方が申し訳ないけれども、リニアより早いですからね。ですから、この技術が進みますとですね、今おっしゃってるビジネスモデルがですね、どうなるかは私はですからね。僕もリニアにずっとコミットしてきた経緯があります。ですから、しかも日本の技術っていうものに対してですね、これは平和な技術ですから、しかもトンネル掘る技術はね、ドーバー海峡だって日本が掘ったんですから、だから私は日本の技術者をですね、信じてるんですよ。だけど、新しい時代に即応した形でやらなくちゃいけないと。それでヤードの問題ですけども、これはね、環境保全の県の条例があります。で、ご存知だと思いますけれども、これ昭和48年にできたもので、5ヘクタール以上になると、これは協定を結ばないといけないってことになっています。ですから、今5ヘクタール以内でやってらっしゃるから、協定なしでどうぞということで、もちろん皆さん働いてる場所の安全を確保せんといかんので、宿舍を造るだとか、その他排水をちゃんとするとかね、やらなくちゃいけないから、ちゃんと認めてきました。ですから、5ヘクタールを超えるとですね。環境保全、この協定をですね、結んでいただくことに相成ります。

(金子社長)

それはもちろんです。前に下準備をいろいろ相談させていただいてたというふうに聞いてて、それはすぐ一生懸命準備をします。一番のでもキーポイントは、先ほどの本部長、本部長の上司でいらっしゃる知事のご了解なんですよ。そこのところがですね、ご理解がいただければ、いろんなことが前に進むんですけどね。

(知事)

私は最大の理解を求めるのは国民であると。それでね、この間、有識者会議で、非常にこの不具合が生じるようなウェブ会議をね、国交省が改めずに、しかもこれは国交省の局長と私がみんなの見てるところで五箇条の御誓文じゃありませんが、会議は全部公開、47項目全部検討する。それから国交省はきちつとご指導される。それから有識者会議のメンバーは中立でなくちゃいけない。

特に座長はそうだと言うことですね、いの一番にあるのが全面公開なんですよ。それをですね、あなたの冒頭のご発言ですらですよ、それがその水嶋君のですね、不興を買ったり大臣の不興までですね、あれは局長が上に上げてるからそうおっしゃってるわけで大臣が。あなたの責任じゃないですよ。いや、ですからね。私はそれはともかくとして、こういうね、いわゆる透明性に欠けるやり方について、今最も今おっしゃった金子社長のリニアにかける日本のこの新しい時代を拓くためのね、この技術、これはですね、なるべく多くの人に知ってもらった方がいいと。私もそう思う。ですから、あの会議でですねやってみることはもう北は北海道から南は沖縄の人までですね、皆知ってもらっていいと。そういうのでどうしてやらないのかとすら思ってるわけです。私はここの部屋はですね、実はもともとあそこ開かずの扉だったんですよ。だけど私は来た時から開けました。そうすると皆一斉に立ちましたよ。いつも閉まってるから。私は、開けっ放しにするって言ったら非常に困られたんですけど、10年間そうやってるんですよ。ですからここではですね、私の声が聞こえるでしょ向こうに。そうするとですね、聞こえて構わないってことなんですよ。だから秘密のことは一切やらない。ただし人事の時には閉めます。それ以外のときはですね、知事室であることは全部公のものだからと。広く会議を興し万機公論に決すという、これはですね、もう一番の民主主義の基本だと。それがですね、残念ながら滞っていると。水の流れじゃないですけど、国交省がですね、JR 東海に指導と言いながら実際はですね、命令して、色々な、あなたに対しても無礼なことを働いてるといふふう聞こえてきてですね、私はもうそういうことは許さないと思っております、ですからむしろ一緒にですね、国交省の、これ全国に放映されてるんですよ。あの会議で立派な福岡先生やうちの専門部会の先生方がおっしゃって、そして、JR 東海は技術の問題科学の問題についてきちんと答弁されてるわけでしょ。それがどうして、いわゆる黒塗りじゃありませんけど全部編集されて、誰が言ったかわからないような形でですね、やるんですか。今回のコロナでもですね、安倍さんじゃなくて尾身さんか。全部自分でしゃべってるじゃないですか。それがね、その人の何か危害が及ぶとか、自由な発言ができないかと。それはですね、学者に対する冒瀆です。そんなことをですね、小童役人にですね、言わせておいていいのかと。ぜひですね、この日本の大動脈しかも我々運命共同体ですよ。一緒にこれ、JR 東海が無いとね、静岡県の生活も、成り立たないわけです。ですから、何にも邪魔するつもりはないと、一緒にやろうと。そういうことですからね。だからまずあれを公開をするということとそれからですね、ぜひあの富士山一周やってもらいたい。

(金子社長)

富士山、さっきおっしゃったのは、身延線、身延線は今、長崎知事からいろんなお話があって、もっと活性化しましょうよって話があって小さい工夫でいろいろやり始めてるんですが、道路がまたでき上がりましたね。

(知事)

できましたね中部横断自動車道。今年にできます。だけどね、全然違います。

(金子社長)

あれとはまた別の形で。

(知事)

それでね。いやだから、トンネルを抜ければ、桃源郷です。そこから、静岡駅、そこから既存の新幹線、これはね先ほど実験線とおっしゃったけど、実験線、でもいいかもしれませんが、もう少し、これ今どこまでいってますかね大月から相模。

(金子社長)

大月近辺 42 キロなんです。笛吹。

(知事)

もうちょっと行けるでしょ。ですからそういうふうな品川までは難しいと思ってますけども。

(金子社長)

それがですからワンセットって話なんですけども、施設の。あの、それで。

(知事)

なんか今事ある毎にですね、リニアはこの、駄目だって言ってる人が出てきているので、そういうその。

(金子社長)

それはちょっと異論があります。私どもは。

(知事)

当然そうでしょう。私もね、あれかこれかじゃないから。あれもこれも。

(金子社長)

そうですか。

(知事)

そういうふうなこともね、一緒にできるんじゃないかと。

(金子社長)

もうそこは大変力強いんですが、何とか、もう本当に繰り返して、私たちに

にとっては大切なことなので、2027年にこれは何とかできたいなと節目で思って頑張ってたわけで、それで、なかなか今のお話だとやっぱり有識者会議の進捗とか進行とかがあって、それはやっぱり待たなければ、やっぱりゴーサインは難しいというふうに受けとめたらよろしいのでしょうか。私たちは、2027年というのも壁ですし、それから危機管理という点から言えばですね、そこをたとえ超えても1日でも早くやりたいという気持ちがあるんですよ。

(知事)

仮にですよ、社長さんどう考えられますかね。仮にですよ。日本トップクラスの科学者が、或いは技術者がですね、これは全量戻すのは難しいと。いう判断をなさったらどうなさいます。

(金子社長)

そこがですね、やっぱり仮にという話も難しいんですが、そこは本当に有識者会議の先生方ですね幅の広い議論をしていただかないといけないと思います。水の問題は、見識のある知事に向かって私色々言うのは申し訳ないですけども、やはり行政単位なのか、もっと大きな単位の中で、どうやって戻して、最終的には大井川のですね、水を使っておられる方々が、困らないようにする。心配をなさらないようにするという、そっちの方が何とか大切に。駄目だと言われるかもしれませんが、ちょっとこの山梨に流れたところがですね、それが許せるものなのか、許せないものなのか、まあ知事は一滴もおっしゃってますが、水の大きな循環の中でですね、という話の中でこれはもう、見識のある先生方にですね、一体現実論は一体どうなんだと。で、最終的にはこの最後の使っておられる方がですね、それじゃあ心配でできないよ、それじゃもうとても心配でやってられないよっていう話では駄目なので、そこまで、そこまでのいろいろ考えて手当をしているんなことを準備をしてくれるんなら、それは、大事な事業だからおやりなさいよと言っただけのようなことを望んでるわけです。

(知事)

それはそうですね。これは初志貫徹するのは大事ですけどね。けどそのコロナウイルスもそうですけれども、予期せぬことが起こります。それからまた自然というのはですね、馬鹿にしてはいけません。しかも年間4ミリ隆起しているところに掘る。いわゆる断層帯を掘りますからね。ですから馬鹿にしてはいけません。で仮にそういうその知見でですね、できなかった、できないと。戻せないと、危ないと。その時社長さんどうなさるんですか。

(金子社長)

本当に駄目だったということですか。

(知事)

はい。

(金子社長)

なかなか、ちょっとそれ考えにくいと私は思ってるんですが。

(知事)

私は有り得ると思ってます。なぜかというとはですね、今回ずっとこの議論を見てましてね、トンネル掘る技術は日本トップクラスですよ。トンネル掘れば、黒部の太陽じゃありませんけど、水が出るんです。その水はですね、そのトンネルの外に排水すればいいわけです。だから、そういうような観点でトンネルを、掘ろうとなったと。ところがその水は、なけなしの我々にとってはかけがえのない命の水で、しかも生物にとってもそうだし、そこに生きてる全体がつくる景観をですね、ユネスコのエコパークでもあると。そうなるよね。非常に難しい、いつぞや社長さんおっしゃったようにこれは極めて難しい課題に今直面してると。つまりね、そこにね、一つの、このどう乗り越えるかってことの難しさのニュアンスをね、私は大変だなと思いつつながら。だけど、トップですからね。仮にですね、掘れないと。水は戻せないと。水質は悪化すると。残土も崩れる可能性があるとして生態系はやられると。そうなった、その可能性がですね、フィフティーフィフティーでもあった時ですね、社長さんはどうなさいます。

(金子社長)

知事それは、そういう方向の考えで私はなくてですね。何とかそれはやっばり乗り越えていかなくてはいけないと思います。それこそやっばり技術があつて、何とかそういうことをですね、乗り越える技術はあるんじゃないかと。楽観的という話ではなくて、なくて、何とかやっばりポジティブな形で技術を結集をしてそれを乗り越える技術というのは、私はあると信じているので、何とか今、有識者の非常に素晴らしい先生方にご参画をいただいて、これは全然駄目だよって話などはともかくですね、ここはとにかく、乗り越えていきたい。非常にポジティブなそういう気持ちでおりますので、そういう、仮に駄目だったという、そういうお問い合わせにお答えできなくてあれですが、私はポジティブな気持ちでおります。

(知事)

山にね登る、今の陛下はお山が大好きで、富士山に登られた。しかし、実は2回目で初めて登頂されたんですよ。1回目の時は20代で登られて、ところがですね、8合目だったと思いますけども、一泊されて。翌日サミットを目指しようと。そうしたら天候が崩れたんですよ。陛下どうなさった。

(金子社長)

それは。

(知事)

帰された。ですからね、実はそういう勇気ってのはですね、それができたのは今度はもう、数え 50 になられて、初めてこの富士山のトップに立たれたんですね頂上に。その時歌も書かれております。「雲の上に 太陽の光は いできたり 富士の山はだ 赤く照らせり」というね素晴らしい歌を。それはともかくとして、そういうね、危ない時には、リーダーはですね、人を危険にさらす訳にはいかないでしょう。ですから、私はせめてね。その場合どうするかということ、ぜひ金子社長にはですね、トップとご一緒にですね、今の国交省の一部鉄道局のね、ゴリオシの人たちは何かですね、もうこれありきみたいにしてやってるように見える。これまでの経緯を見ると。私はこれはですね、あなたに対する態度も見ててですよ。これはどうもね、公僕というのと違うなど。何か権力者みたいな感じになってるから。ですからこれをですね、我々は国民のためにやってるわけですから一緒に。ですから、そういうもちろん主権在民なんですから、いかにすれば、先ほどの大いなる和ですね。リニアの技術をちゃんと日本が世界に見せると、それはまた危機管理にも役に立つと。しかし一方で南アルプスの水は大きな力でこういうふうにしたというふうなね、どうするかっていうのはこれからですけど、考えるということが大事だと思いますよ。

(金子社長)

いろんなことを考えなくちゃいけません、もう知事とやっぱりご一緒にですね、やっぱりきっとやり遂げるというポジティブな気持ちで前に進んでいきたいと思いますので。今日ちょっとヤードの話がなかなかご了解いただけなかったのは残念ですけれども。

(知事)

いやいやともかくこれはね、条例にかけるだけの話ですから。

(金子社長)

条例が通ればいいんでしょうか。

(知事)

もちろんです。条例でそれは専門部会でちゃんとやりますから。

(金子社長)

専門部会で。

(知事)

それはきっちりと、このつまりこれは環境が保全できるかどうかという。5

ヘクタール以上になれば、これはもう一応私の権限では1ヘクタールでもできるんですよ。だけど5ヘクタール以上の工事になれば、これは我々はですね、本体工事とは別で、もうおっしゃってるように、いわゆるこれ活動拠点工事って言うてるわけです。

(金子社長)

私の理解では、条例は大切なんですが、一応かなり条例自体常識的な条文が並んでる。条例で条例で、何か今実質的にこの環境、この今のいろんな専門部会でこれまで揉んでいただいて或いは、今有識者会議でこれからもまれるかもしれない、そういう話とはまた別次元というのが私の理解なんです。

(知事)

具体的に、場所をね、特定して、そこでこの自然環境の保全に支障があるかどうかというのが5ヘクタール以上になると自動的にですね、そういうその委員会にかけて、そして許可或いは不許可というのが決まると。これはもう昭和48年、1973年から一貫してそういうことです。

(金子社長)

そうですか。それはちょっと、実務的に伺いましたら良いということなんでしょうか。

(知事)

そういうことですね。ですから何もね、そこで働いてる方たちのことも考えてやらなくちゃいけないし、ですからいわゆる活動拠点を作ってらっしゃるわけですから、その方たちに必要な環境整備といいますか、それからまた、例えばボーリングもね、地質調査も山梨県側でだけ垂直のボーリングされて、静岡県側でやってらっしゃらない。そうすると静岡県側の地質が本当にわかってるのかどうかと。地質を見つけるためには、地質を調べるためにはそれなりの平地を作って、ボーリングしないとダメと。だからそういうのはね、どうぞやってくださいと。何かこのあれかこれかではありませんで、それぞれトンネル本体工事と別個のものとしてっていうことであれば、それを一つ一つ納得なくめで、やっていけばですね、何もその、頭からノーとか頭からいけないとか、そんな話ではありません。

(金子社長)

分かりました。なかなかちょっと時期が迫った議論ではありますが、ちょっと今手続きが飲み込めないところもありますが、早急にそういう手続きの問題であるならば。あるならば、私どもの実務の方からお問い合わせをして、早く進めていただけるものならありがたいし、やっぱりそこはもっと実質的な審議がやっぱり時間がかかるんだということであれば、難しい問題になってしまい

ますので、今の知事の話はそう難しい話ではないという。

(知事)

条例っていうのはね、これはもう一つの守るべき準拠すべきものなので。

(金子社長)

わかりました。

(知事)

それが今、ヤードに関わることで、クリアされればね。

(金子社長)

わかりました。ヤードは先ほど申し上げたように、掘ったりしませんので。トンネルを掘ったりしませんので、準備をしとくだけなんでぜひそのところの一番大きなところをご理解いただいて、進めばいいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

(知事)

分かりますよ。金子さんの。私もあなたの立場なら。似たようなこと言うんじゃないかと。

(金子社長)

いやどうもありがとうございます。

(知事)

長いこと時間をいただき、ありがとうございました。

(金子社長)

ありがとうございました。また是非、こういう機会を持っていただければと思います。

(知事)

そうですね。ええ。